

○事業所名	スタディラボ		
○保護者評価実施期間	2024年 4月 1日 ~ 2025年 3月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31 (回答者数)	20
○従業者評価実施期間	2024年 4月 1日 ~ 2025年 3月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3 (回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学習プリントは学習習慣を身につけるために提供している。 利用毎にPCを用いたスモールステップでの学習があり、成人になる際に自身の武器としてPCスキルの習得を目指している。	PCスキル・プリント学習の他に、ソーシャルスキルトレーニングを通じて他児との関りがもてるよう支援している。関りの中で相手の気持ちや、一般的な考え方など社会性を学ぶ場所となれるよう意識しています。	現状は学習支援において目標は学習習慣の訓練としているが、取り組む中での学習能力の向上に繋げてゆければと考えている。
2			
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現状は職員の配置が最低要件の3名であり、利用児童に対しては4名での運営が望ましいと考える、採用活動を進めてゆきより手厚い支援を目指してゆく。	採用媒体が固定化しており、効果が得られていない。	新たな求人媒体の選定をして、有効な求人に繋げてゆく。
2	同業他社や学校との連携がほとんど取れていない。	上限管理事業者との連携、自社上限管理の児童の対象上限管理事業者に対する声掛けができていない。	事業所連携加算での連携、地域で実施している交流会への参加などを実行してゆく必要がある。
3	保護者に対しての助言や相談に乗れる機会がほとんどとれていない。	児童発達支援管理責任者による保護者に対するアクションが多く取れておらず、送迎時など偏りがでているため、計画的にアクションを起こしてゆけるようにする必要がある。	①対面以外にも、携帯のメッセージツールなどでも相談しやすい環境作りをし、よりコミュニケーションがとれるようにしてゆく。 ②避難訓練やイベント時の報告のために保護者向けのおたよりを都度作成できるようにしてゆく。